

〔江戸東京野菜生産流通拡大事業（受託試験）〕

「金町コカブ」3系統の品種特性
～栽培時期での品質の変化と3系統の特性～

蛭木朋子・野口 貴・海保富士男・徳田真帆
(園芸技術科)

【要 約】「金町コカブ」の3系統では、日農で裂球が、サカタで歪みが多い傾向だった。3系統の中でも「金町コカブ」の特徴が強く出ているのは葉の生育が旺盛で風味が強い日農と考えられる。

【目 的】

「金町コカブ（以下、金町）」は系統の違いで特性が異なる可能性がある。そこで販売されている3系統で栽培時期による品質の変化を把握する。また、適期の作型で栽培し3系統の特徴を明らかにする。

【方 法】

「金町」の3系統（日本農林社：以下、日農、サカタのタネ：以下、サカタ、タキイ種苗：以下、タキイ）および対照品種「白馬」（武蔵野種苗園）を2021年～2022年に通年で露地栽培した。化成8号をNで10～15kg/10a施肥し、条間14cm、株間12cmに3粒ずつ播種して1本に間引き栽培期間中は寒冷紗でトンネル被覆した。2021年5月～2022年4月まで間引き収穫して調査をした。3系統の特性の比較は、2022年9月22日に播種、11月16日収穫で行った。

【成果の概要】

1. 裂球は「金町」の全系統に通年で確認され「白馬」ではわずかだった。裂球は、日農の5月下旬播種（収穫は7月上旬）で多く、栽培中の多雨が要因と考えられる（図1、図2）。通年では日農で裂球が多い傾向だった。歪みは8月中旬のサカタ、タキイ、「白馬」で多く、通年でサカタが多い傾向だった。タキイでは4～6月の障害率が他の2系統よりも低かった。凍害による表面剥離は11月中旬播種で「金町」の全系統および「白馬」のほぼ全個体でみられ、11月下旬播種で半減した（図1）。
2. 球径と球重は「白馬」、タキイ、サカタ、日農の順で大きく、1株重は「白馬」、タキイ、日農、サカタの順で重かった（表1）。
3. TR（葉重/球重）比は、日農、サカタとタキイ、「白馬」の順で高かった。「白馬」と比較して「金町」は全系統で葉の生育が旺盛で球の肥大が遅く、特に日農でその傾向が顕著だった。サカタ、タキイのTR比は日農よりも「白馬」に近く、球の肥大が早いといえる（表1）。
4. 生食での印象は、「白馬」に対し甘みは劣り硬めであるが日農、サカタは風味と旨味が強い。サカタでは皮部の辛みがやや強い。タキイは他2系統より風味が劣った。どの「金町」系統も高温期の栽培で辛みが強くなりやすい。

【残された課題・成果の活用・留意点】

本成果は江戸東京野菜栽培のマニュアル作成の資料とする。

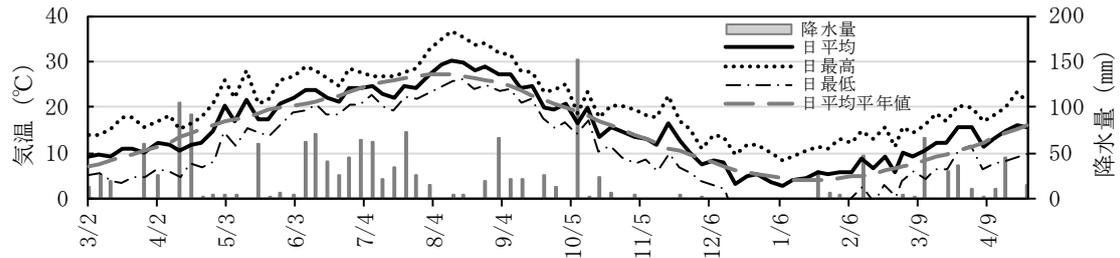


図1 栽培期間中の気象条件（2021年3月～2022年4月）
府中市の気象庁過去データを参照した。

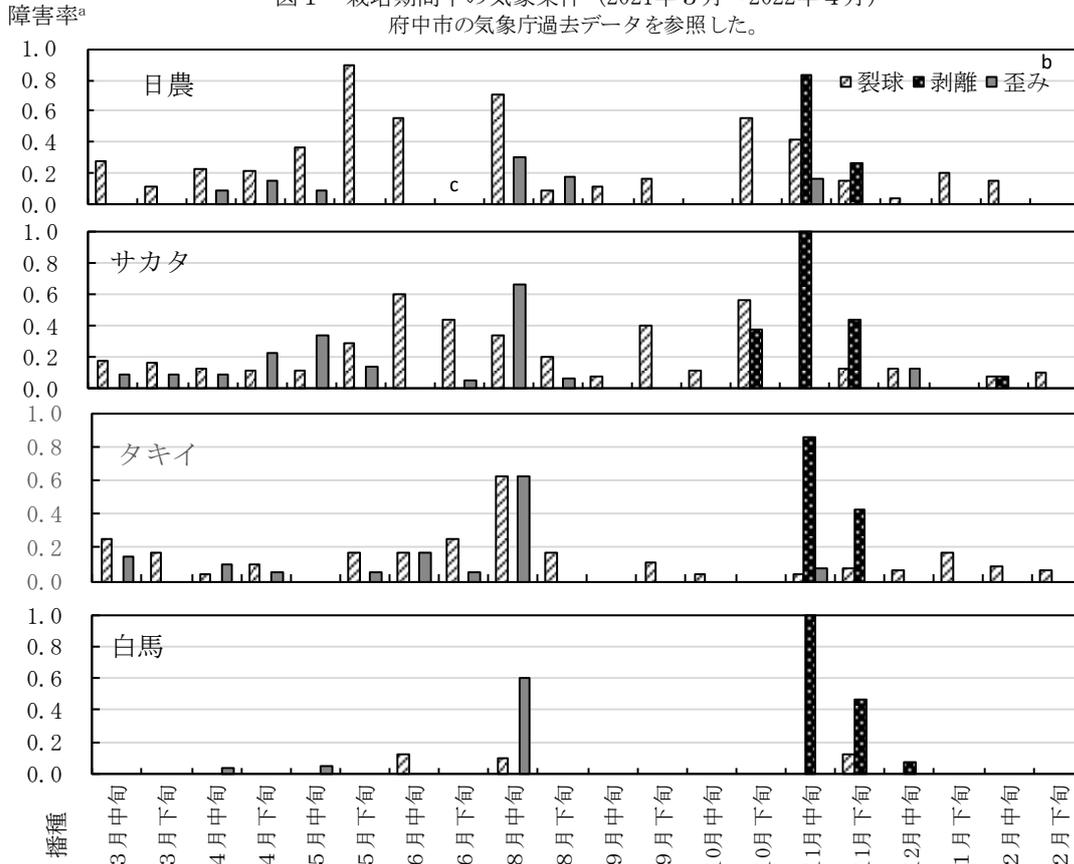


図2 障害率の月次変化

a) 収穫全数に対する各障害個体数の割合 b) 障害は裂球，剥離（凍害による表面剥離），歪みで，同一個体に複数の障害が出た場合はそれぞれでカウントした。c) 収穫数が0だった。

表1 「金町」と「白馬」の生育・収穫物の特性^a

系統	草姿	草勢	葉数	葉長	葉色	球高	球径	球形 目視	裂球率	可販率 ^b
			枚	cm	(SPAD)	cm	cm			
日農	開	強	9.1	42.8	26.2	4.6	5.8	やや扁円	0.27	0.70
サカタ	開	強	9.1	40.7	26.4	5.2	6.2	やや扁円	0.20	0.77
タキイ	開	強	9.2	44.0	25.8	5.0	6.7	やや扁円	0.07	0.93
白馬	開	強	10.3	42.3	25.3	5.4	6.7	やや扁円	0.00	1.00

系統	主根径 cm	首径 cm	葉重		球重		TR比	1株重 g	収量 ^c kg/10a	可販収量 ^d kg/10a
			g	cv	g	cv				
日農	0.51	3.0	135	0.18	87	0.29	1.63	222	1998	1399
サカタ	0.43	2.9	102	0.22	115	0.23	0.93	216	2635	2020
タキイ	0.48	2.7	113	0.27	127	0.31	0.92	240	2913	2718
白馬	0.49	3.0	107	0.26	142	0.27	0.78	249	3270	3270

a) 調査数はn=15の2反復で行った。cvは変動係数を示す。b) (収穫全数-障害数)/収穫全数 c) 球重を10aあたり23000株で算出した。d) 収量に可販率を乗じた。